

自己評価

学校教育目標	1 校訓（目指す児童生徒の姿） 「仲よく 明るく たくましく」 2 教育目標（目指す児童生徒の姿を実現するためにどのような教育を行うのか） 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動を推進し、こころ豊かにたくましく主体的に生きる力を育成する 3 私たちのスローガン（校訓・教育目標を端的に表した言葉） 「元気な病弱教育」 （1）この学校で学ぶことで、児童生徒を元気にしていきたい （2）そのためには、保護者も元気にしていきたい （3）そのためには、私たち教職員も元気に働きたい （4）力を合わせて、学校も地域も元気にしていきたい 4 今年度の教育の重点 （1）児童生徒を守りきる安心・安全な体制の整備・推進 （2）人とのかかわりを通して、豊かな表現力、自己肯定感を育てる教育の推進 （3）確かな学力と生きる力を身に付けることができる病弱教育の充実 （4）病弱教育の理解啓発の推進
--------	---

部	小学部
現状及びアンケートの結果分析等	・オンライン授業の実施等のICT機器の活用によって、同時双方向による児童と教員の関わりの中で個別の学習を進めることができた。 ・ICT器使用時における児童の実態や活動場面ごとのメリット、デメリットを明確にし、より有効な使用方法や環境整備について検討し実践を重ねていく。 ・学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を目指して授業改善を行うことで、学習や学校生活の中で児童が自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりする姿がみられたが、コロナ禍により十分な場を設定することができなかった。 ・学習グループ内において、指導内容の明確化や学習記録の共有化によって指導方法の改善を図ることができた。 ・部集会や他校との交流活動において、積極的にWeb会議システムを活用することで、離れていても同じ活動の時間を共有し互いを意識することができた。 ・保護者や関係機関等と連携して情報交換を行ったことで、課題や支援の内容が明確となり、必要な支援を的確に実施することができたため、今後も取組を継続していく。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実現していくための授業改善を積極的に行う。 (2)児童の実態に応じた合同学習、他校との交流学习を計画的に実施することで、児童相互のかかわりを広げる。 (3)保護者や関係機関と連携して、家庭や地域等において児童の生活が広がる支援を目指す。
重点目標を達成するための校内組織体制	・学級及び学習グループ会と、グループ長・分掌長等の企画会を実施する。 ・安全・安心に教育活動を送るための家庭・病院等・保健室と連携する。 ・部内の各分掌担当者の積極的な連携、業務の推進を行う。
目標の達成に必要な具体的取組	(1)学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実現していくための授業改善を積極的に行う。 ①学習指導要領に基づいて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を積極的に行う。 ②Dグループの図画工作・音楽について、教科の観点に基づく評価を行うための指導内容や指導方法の検討を行う。 ③児童の実態ごとのオンライン授業実施によるメリット、デメリットを明確にし、改善方法を検討し実践する。

	(2)児童の実態に応じた合同学習、他校との交流学习を計画的に実施することで、児童相互のかかわりを広げる。 ①異なる学習グループの児童相互のかかわりが広がるようグルーピングを工夫し、ICTを活用しながら合同学習を進めたり行事に向けた取組や休み時間の活動を行ったりする。 ②交流学习にweb 会議システムを積極的に活用することで、他校の児童との交流の機会を多く設定する。 ③訪問教育児童の学校や居住地校でのスクーリングを安全・安心に計画的に実施する。 (3)保護者や関係機関と連携して、家庭や地域等において児童の生活が広がる支援を目指す。 ①個別の教育支援計画に基づいて、本人・保護者の願いやニーズを踏まえ、ねらいを教員間で共有しながら教育活動に取り組む。 ②医療、福祉関係等の外部機関と連携して、児童のQOL向上を目指したキャリア形成支援を行う。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1)学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実現していくための授業改善を積極的に行うことができたか。 (2)児童の実態に応じた合同学習、他校との交流学习を計画的に実施することで、児童相互のかかわりを広げることができたか。 (3)保護者や関係機関と連携して、家庭や地域等において児童の生活が広がる支援を目指すことができたか。
取組状況・実践内容等	(1)・一人学級では、課題に対してICT機器等を活用し、いろいろな角度からの情報や考え方を提示し、教員と対話をしながら学習を進めた。 ・児童同士が互いに思いを伝え合ったり、相談して決めたりする場面を様々な教科・領域において設定し、児童の様子を教員間で振り返り共有して次の支援に生かした。 ・Dグループでは、児童の実態に合わせた図工や音楽の活動内容を設定し、無理なく児童が主体的に参加できる場面を増やした。 (2)・オンラインで居住地校の児童との交流や、近隣校との学校間交流を実施した。 ・学部集会（わくわくタイム）や出前授業等で他グループの児童とオンラインでの合同学習を行い、交流活動や制作活動を実施した。 ・Eグループでは、スクーリングの代わりにオンラインでDグループの音楽の授業に参加した。 (3)・毎回の懇談で保護者と個別の教育支援計画や指導計画を確認し、グループ内でも情報を共有して支援を行った。 ・外部専門家の支援を受け、ベッドサイド学習の児童を含め、今後の支援内容を明確にして取り組んだ。 ・入所生の活動について、病院に事前に相談し協力を得て実施した。
評価の視点	評価
(1)学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実現していくための授業改善を積極的に行うことができたか。	A ☒ B C D
(2)児童の実態に応じた合同学習、他校との交流学习を計画的に実施することで、児童相互のかかわりを広げることができたか。	☒ A B C D
(3)保護者や関係機関と連携して、家庭や地域等において児童の生活が広がる支援を目指すことができたか。	A ☒ B C D
成果・課題	総 合 評 価
(1)○ICT機器の活用や教師との対話によって自分の考えを深めながら主体的な姿勢で学習に取り組むことができた。 ○友達の発言を聞いて自分の考えを深めて意見を発表する経験を重ねることで、伝えたい事柄を考え言葉で表現する力を高めることができた。 ○Dグループの図工・音楽では、教科の段階の評価の観点及び趣旨を踏まえ、児童の実態に合わせた授業内容、支援方法を検討し実践することができた。 ▲コロナ禍により校外学習を実施できないことがあり、校内では難しい体験的な活動を十分に行えないことがあった。 (2)○居住地校の友達に会えることを楽しみにしながら準備や当日の活動に意欲的に取り組む姿がみられた。 ○オンラインで同じ時間に活動を共有することで互いを意識し認め合い、小学部の仲間であるという一体感	A ☒ B C D

を醸成することができた。 ○他学級の友達とかかわることのできるオンラインでの合同学習を楽しみにし、積極的に交流を深めることができた。 ▲オンラインによる活動の実施は、通信環境や使用機材によって大きく活動が左右されるため、常によりよい実施方法について検討していく必要がある。 (3)○グループ内での共通理解によって適切な課題の選択や具体的な支援に生かすことができた。 ○専門家の視点からアドバイスを得られ、支援の有効性と今後の見通しを確認し、自信をもって支援にあたることができた。 ○病院とはオンラインの行事や集会等の取組や使用教材等、事前に説明し許可を取ることで、安全に充実した取組ができた。	
来年度に向けた課題と改善方策案	・コロナ禍における感染症対策に留意した校外学習等の効果的な実施方法やその代替となる活動内容について検討する。 ・ＩＣＴ機器（視線入力、スイッチ等）の活用について、オンライン授業に限定することなく、学校生活全般で活用できるように取り組む。 ・訪問教育の児童の割合が増えてきており、児童の実態に合わせた部集会等の実施方法について検討する。

部	中学部
現状及びアンケートの結果分析等	・教職員が協力して感染予防等の環境整備に努めてきた。継続する中、慣れからくるミスを防ぐために、チェックリスト活用やお互いの言葉掛けを大切にする。 ・学習活動においては、感染対策を講じることによりある程度の校外学習や販売活動等が可能であった。今後こうした体験的な学習を大切にして、生徒が実践活動から学ぶ機会を保障していく。 ・オンライン部集会や授業は、大集団の中では十分に出せなかった力を発揮できた生徒がいたり、訪問生のリアルタイムでの参加が可能となったりした。また、コロナ禍での対応として、自宅待機等をする生徒にとっては学ぶ機会の保障や精神的な安定につながったので、今後も積極的に活動として取り入れていく。 ・ＩＣＴ機器の活用は、生徒に活動の幅を与えることができる。 ・教職員や保護者、専門家の連携により、生徒の小さな変化の共有や生徒が気持ちを話せる場の設定等につながったので継続することが大切である。 ・生徒の実態に応じた生活力の育成を図るためには、教職員の病弱教育の専門性向上や積極的なＩＣＴ機器の活用が大切である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 生徒が心身共に健康で安全な生活を送るための環境整備をする。 (2) 多様な実態の生徒が、個々の表現方法で気持ちを相手に伝える力を育てる。 (3) 生徒が実態に応じた社会生活を営むための知識や技能の習得を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	・教職員が部会やグループ会や分掌会等において、生徒の情報を常に共有し、一人一人に応じたきめ細かい支援を組織として行えるようにする。 ・安全面に対する意識や環境整備の状況について部会や朝礼等でこまめに確認する。 ・職員の専門性向上に向け積極的に研修が受けられるよう、部内職員間で協力し合い、関係分掌とも連携しながら進める。
目標の達成に必要な具体的取組	(1) 生徒が心身共に健康で安全な生活を送るための環境整備をする。 ① 感染症対策として基本的衛生管理を各係と連携し、教室の衛生管理をする。 ② 生徒が病気理解や感染症予防ができるよう学習を行うとともに、自宅待機等が必要な場合の生徒に対する精神的な支援をオンライン授業等を通して行う。 ③ 教室内の教材備品等の配置や掲示の工夫により、生徒が安心して活動できる環境を整える。 (2) 多様な実態の生徒が、個々の表現方法で気持ちを相手に伝える力を育てる。 ① あらゆる教育活動で生徒が自らの思いを表現できる機会を設定したり、タブレット端末等の活用で表現ができたりするよう、専門家とも連携し取り組む。 ② 感染対策を十分に行い、行事や校外学習またはオンライン学習等の体験的な学習を通して、人との関係作りや自分の考えの伝え方等を学べるようにする。 ③ 教職員と保護者、専門家が生徒の実態や課題の情報共有、共通の支援を行う。 (3) 生徒が実態に応じた社会生活を営むための知識や技能の習得を図る。 ① 教職員が教科や自立活動等の専門性向上に努め、生徒の興味・関心や主体的な姿を引き出す活動を模索

	し実践する。 ②「個別の指導計画」「年間指導計画」等を活用し、生徒の課題や評価の仕方について教職員間で情報共有し実践に活かす。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1)保護者や専門家等と連携し、生徒の小さな変化への対応ができたか。 (2)生活に必要な知識や技能が個の実態に応じて身に付くよう支援ができたか。 (3)教職員が生徒支援の専門性向上やICT機器等の積極的な活用ができたか。 (4)教室の衛生管理や生徒が落ち着ける掲示等の環境整備ができたか。 (5)感染症対策を適宜行い、体験的な学習を通して人との関係作りや自らの思いを表現できる機会等の整備ができたか。 (6)「個別の指導計画」等を活用し、教職員が生徒の情報を共有し、実践に生かすことができたか。
取組状況・実践内容等	(1)・生徒の実態や状況に応じて保護者や保健室、生活支援部と連絡を取り合ったり、専門家支援を活用したり、担当医と連絡をとったりして、安全で安心した学校生活を送ることができるよう協力し、日々の生徒支援を行った。 ・手洗いや消毒、換気をして感染予防対策をし、教室内には不要なものを置かずに生徒が学習に集中できるよう、環境整備を徹底した。 ・必要に応じて、ついたてやカーテンを利用して、生徒が活動に集中できるようにした。 (2)・生徒の舌や眉の動き、心拍の変化等を授業の中で観察したり、表情や言動に注目したりして、発達段階に合わせた表現を担当教員で情報を分析・共有し、生徒に寄り添った授業を実践した。 ・eスポーツ大会をきっかけに、未活用だったスイッチやアプリを知り、その後の授業にも活かした。また、オンライン授業での共有画面操作やビデオ編集ソフトの活用をして自宅学習や居住地校交流を効果的に実施した。 ・部集会はリモートで行い、通学生での持ち回りで司会をした。中学部全員をオンラインでつなぎ、学習場所が異なってもつながりを感じられる時間を作った。 (3)・感染対策を熟慮して校外学習を実施したり、校内活動に変更して火起こし体験や草木染め体験を実施したりした。 ・生徒の実態に応じてキャリア学習や環境学習を進めた。教科学習では、生徒の理解や体調に応じて授業の進度を変更し、内容を精選して進めた。 ・前期末、後期末に教科担当者が集まり、個別の指導計画等を活用して生徒評価や情報交換をして共通理解し、個の課題に迫る支援について考えた。
評価の視点	
(1) 生徒が心身共に健康で安全な生活を送るための環境整備ができたか。	A (B) C D
(2) 多様な実態の生徒が、個々の表現方法で気持ちを相手に伝える力を育てることができたか。	(A) B C D
(3) 実態に応じた社会生活を営むための知識や技能の習得を図ることができたか。	A (B) C D
成果・課題	
総合評価	
(1)○実態に応じて、保護者と連絡を取り合ったり専門家支援を活用したりして、ニーズの把握や生徒支援ができた。保護者との連携において登下校時間の有効活用ができた。 ○活動場所や学習方法を工夫し、感染症対策をとりながら学習活動ができた。 ▲専門家支援相談日に生徒が登校できないこともあるので、予め生徒の活動動画を撮っておいたり、別の学級生徒の相談に切り替えたりする。 ▲生徒の荷物が多く、教室内の整理整頓が大変で教室の狭さを感じた。 (2)○訪問の生徒もスイッチやアプリを活用した表現活動を行うことができた。 ○リモートでの部集会では、中学部全員でのつながりをもつことができ、仲間を意識し、相手を思いやることを学ぶことができた。 ▲部集会や学習活動において、感染予防対策のため、直接会って交流することができなかった。人と人のかかわりがよりもてるリモートの活用方法や掲示物等の工夫を継続して行っていく。 (3)○目指す姿と具体的な手立てを教員で共有して生徒対応をすることができた。 ▲昨今の感染状況からプライマリー懇談や訓練参観ができない状況を鑑みて、毎月行っている病棟等との連絡会や担当者との打ち合わせを有効活用する。	A (B) C D
来年度に向けた課題と改善方策案	・コロナ禍における日常的感染対策の継続と予防対策をした学習活動の工夫を行い、安全対策をお互いに確認し合う。

	・気持ちの表現手段や、直接交流の困難さからもＩＣＴ機器指導力の向上を図る。 ・目標に向かう手だてや評価の仕方の共有をするために、職員間や保護者、外部機関ともより連携し、個別の指導計画等を積極的に活用していく。
--	---

部	高等部
現状及びアンケートの結果分析等	・生徒の病気や障がいの程度が異なり、身体機能、知的理解、コミュニケーション能力、基本的生活習慣、社会的経験等において多様な実態がある。 ・教員が指導法や授業力、専門性、資質の向上に努めるとともに、部全体の指導力が高められるよう教師個々の実態に合わせた研修会、伝え方、指導方法の共有をより図っていく必要がある。 ・情報の共有や危機管理等、組織としての意識を高くもち、十分に連携を行いながら支援にあたる必要がある。 ・保護者や関係機関との連携を大切にするとともに、生徒の家庭での状況を把握し、必要に応じて保護者と共に支援にあたることのできる体制づくりを行う必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 一人一人の病気や障がいの状態に応じた教育により、将来の社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付ける。 (2) 豊かな情操と個性ある表現力を身に付ける。 (3) 健康の保持増進と生活の安定を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	・生徒が安心・安全な学校生活、家庭生活を送ることができるように、家庭や関係機関との連携を図りながら、教員間の共通理解に基づいた危機管理意識の高い支援体制を確立する。 ・生徒が創造性豊かな自己表現を獲得し、社会性やコミュニケーション能力を身に付ける手だてとして、多様な体験・表現及び発表や交流の場を積極的に提供する体制を充実させる。 ・生徒が確かな学力や進路実現に必要な基礎・基本を身に付けるべく、あらゆる教育活動において効果的な指導を行うため、教員自らが指導法の改善や専門性と資質の向上に努め、研修等から得た知識や技能を授業実践に生かすだけでなく知見の共有化を図り教員同士が学び合う組織を構築する。
目標の達成に必要な具体的取組	(1) 一人一人の病気や障がいの状態に応じた教育により、将来の社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付ける。 ①生徒が進路目標を明確にもち、やがては希望の進路を実現するため、教育活動のあらゆる場面でキャリア学習を進めるとともに、生徒の実態に応じて保護者や関係機関と緊密に連携し実施方法を工夫しながらキャリア実習や居住地域実習等を実施する。 ②確かな学力や社会人として必要な基礎・基本を身に付けるために、生徒が系統的で具体的に取り組めるよう３年間のキャリア学習の流れを明確にして指導に生かす。 ③困難さを伝える方法や喜び等の気持ちを表出する力、集団内での適切な言動を身に付けるため、オンラインを用いて人とのかかわる機会を増やすなど、ソーシャルスキルや表現力の獲得を図る。 ④教員が研修や日頃の実践から得た知識や技能を互いに学び合う体制を築くため、様々な機会をとらえ知見の共有に努める。 (2) 豊かな情操と個性ある表現力を身に付ける。 ①多様な「みる・きく・ふれる・つくる」場を提供して、創造性豊かな制作や発表を行う。 ②表現（表出）力やコミュニケーション能力の伸長を図るため、ＩＣＴ機器や教具等を積極的に活用するとともに、新しい教材や指導方法の開発をする。 ③自己肯定感を高めるため、コンクールや検定試験、行事等への積極的な取組を支援する。 (3) 健康の保持増進と生活の安定を図る。 ①精神的に不安定な状態の生徒が自己理解を進め、自立に向けて前向きに考えることができるように、保護者の理解や協力を得て効果的で継続的な支援を行う。 ②生徒の健康状態の維持と生活環境の改善のため、外部の専門家や各関連機関と連携して保護者を支援するとともに、必要に応じてケース会議等を開催する。 ③生徒の安全を脅かすリスクの芽を早期に発見したり、緊急事態に適切に対処したりするため、ヒヤリハット事例の報告と蓄積を図るとともに、危機管理意識を高く保ち、常に全職員でホウレンソウを徹底して情報を共有する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1) ①生徒が明確な進路目標をもち、進路希望が実現したか。 ②学力が向上し、社会人として必要な基礎基本が身に付いたか。

	③ソーシャルスキルや表現力の伸長がみられたか。 ④教員が互いに学び合う体制を築くため、様々な機会をとらえ知見の共有に努めたか。 (2) ①多様な「みる・きく・ふれる・つくる」場を提供して、創造性豊かな制作や発表ができたか。 ② I C T機器や教具等を積極的に活用するとともに、新しい教材や指導方法が開発できたか。 ③コンクールや検定試験、行事の実施方法を工夫しながら積極的に取り組んだか。 (3) ①保護者の理解や協力を得て効果的で継続的な支援を行ったか。 ②関連機関との連携を図ることで保護者を支援し、生徒の生活環境を改善できたか。 ③ヒヤリハット事例を蓄積し、常に全職員でホウレンソウを徹底して情報を共有したか。
取組状況・実践内容等	(1) ・コロナ禍ということもあり集団における支援の場が少なく、個に応じた支援が中心となったが、生徒の卒業後を意識して、自立活動の指導目標・指導内容を設定して取り組んだ。 ・今年度も引き続きコロナ対応のため活動が制限されたが、オンラインの利用にも慣れ、生徒の実態や目標に応じた授業を行うとともに、他校の生徒とも交流できた。 ・生徒の実態や様子をグループや教科担当者間で確認・共有し指導・支援を進めることができた。 ・学校や家庭で安定した生活を送ることができるよう、常に生徒の様子を観察し、職員間での共通理解を図った。 (2) ・部集会や金華祭、授業等でオンラインを活用することを想定しながら、動画や作品を制作したり発表方法や視聴方法を工夫したりした。 ・生徒の実態を把握した上で、新型コロナウイルス対策にも配慮し、安全安心の環境づくりを最優先にしながら生徒の表出を引き出すために、積極的にタブレット端末を活用した。 (3) ・生徒の実態に合わせて自分自身を振り返ったりすることができるような場を定期的に設けた。また、困った時に外部機関に相談をすることができるよう支援を行った。 ・授業支援の専門家や外部機関（医師、看護師、理学療法士、臨床心理士等）と連携し、助言を踏まえて指導方法に取り入れたとともに、保護者や病棟スタッフとも連携して生徒の生活支援を行うことができた。
評価の視点	評価
(1) 一人一人の障がいの状態に応じた教育により、将来の社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付ける支援ができたか。	A ① B C D
(2) 豊かな情操と個性ある表現力を身に付ける支援ができたか。	A ① B C D
(3) 健康の保持増進と生活の安定を図る支援ができたか。	A ① B C D
成果・課題	総合評価
(1) ○一人一人の生徒に対してかわる職員が集まって目標や成果、課題、支援の在り方等話し合うことができ、必要に応じてケース会議も実施することができた。 ○Metamoji ClassRoom を使用したことで、オンライン授業中での板書のやり取りや、教材の電子化をすることができた。 ○生徒の健康や問題行動に気を配り、保護者や同僚、各関係機関と連携を図って生徒理解を深めながら指導、支援することができた。 ▲コロナ禍ということもあり、生徒の実態把握が難しく、授業や支援の負担が一部の職員に偏りがみられた。 (2) ○オンラインでの金華祭、部集会や授業で生徒とかわる場を積極的に設けたことにより、生徒間で自発的にかわりをもとめたり、自分なりに工夫しながら自己表現しようとしたりする態度がみられた。 ▲動画を撮ったり、I C Tを利用したりすることが目的にならないよう、活動の目的を明確にする。 (3) ○動画や写真を提示しながら専門家から助言を受け、支援方法について職員間で具体的なイメージを共有しながら日常の支援に生かすことができた。 ▲ベッドサイド授業では、生徒の体調が分かりづらいため、もっと病棟看護師から病棟での様子を聞くことができるとよい。	A ① B C D

来年度に向けての改善方策案	・教員が指導法や授業力、専門性、資質の向上に努めるとともに、部全体の指導力が高められるよう教員同士が学び合う場を設けるなど、教員個々の実態に合わせた研修会、伝え方、指導方法の共有をより図っていきたい。 ・情報の共有や危機管理等、組織としての意識を高くもち、グループ長会を開催するなど十分に連携を行いながら支援にあたることができるようにする。 ・保護者や関係機関との連携を大切にするとともに、生徒の家庭での状況を把握し、必要に応じて保護者と共に支援にあたることのできる体制づくりを行う。 ・誰もが学級を越えた支援ができるように、教員間で連携をとりながら高等部全体で支援にあたることのできるようにするとともに、業務に偏りが起きたり負担があつたりする場合は主事に相談する。
----------------------	--